

目指す姿のねらい

目指す子どもの姿

教職員が、自由の相互承認に関する理解を前提として、子どもたちと接する中で、子どもたちが、学校を安全・安心な環境と認識し、他者との信頼・協働関係を育む中で、自己肯定感、自己有用感を高め、自分自身の選択と行動により幸せな未来をつくろうとする力を育てていきます。

目指す学校・教職員の姿

子どもが教育の主人公として学びに向かうためには、まず、学校がケアの心に満ちた温かい対話と空間のある場所となることが必要であり、こうした学校は、失敗を許容し挑戦を奨励するワクワクの場ともなるものです。

また、社会が複雑・多様化する中で、教職員に求められる専門性はより高くなるとともに、子どもへの対応の際（特に子どもからのSOSの場合など）教職員が個々でなくチームを編成し力を合わせて子どもに向き合う場面が増えていきます。働き方改革を推進することで、教職員自身の専門性、やりがい、満足度及び幸福度の向上を図り、子どもと意義ある向き合い方ができるような環境をつくっていきます。

目指す家庭・地域の姿

教育は、学校・教職員だけの力で成し得るものではありません。家庭・地域の皆様にも、子どもの教育の当事者としての役割と責任を担っていただきながら、コミュニティ・スクールをはじめとする多様な地域資源を活用し、多様な人の繋がりの中で子どもの居場所、挑戦を促す場づくり、教育を基盤としたまちづくりに取り組んでいきます。